

第 344 回金沢眼科集談会 プログラム

日 時 令和元年 12 月 22 日 (日) 13:00~16:00

会 場 ANA クラウンプラザホテル金沢

〒920-8518 金沢市昭和町 16-3 電話:076-224-6111

連絡先:〒920-8641 金沢市宝町 13-1 金沢大学眼科学教室

電話 (076)265-2403 FAX (076)222-9660

mail: ganjimu2@med.kanazawa-u.ac.jp



※金沢駅より徒歩1分。雨に濡れずにホテルまでお越しいただけます。

- ・ 参加費は 2,000 円です。
- ・ 集談会終了後、懇親会(会費無料)を予定しております。
- ・ 本学会は専門医制度生涯教育事業 (No.59003)として認定されております。
- ・ プロジェクターを一台用意いたします。パソコンはご自身のものをお持ち下さい。
- ・ 「眼科臨床紀要」に掲載しますので演者の先生は抄録(400 字以内)をメールにてご提出下さいますよう、お願いいたします。

共催: 金沢眼科集談会 参天製薬株式会社

— 次回ご案内 —

令和 2 年 4 月 12 日 (日) 10:00~13:00 金沢大学附属病院宝ホールにて開催の予定です。

一般講演

(13:00~13:45) 座長 ひろせまき 広瀬真希 先生 (福井大)

1. 小発表三題：1. 消えない結膜下出血 2. 刺さる睫毛 3. Mフック

すけがわとしゆき
○助川俊之 (加賀市医療センター)

2. 気象条件・人種の異なる6地域における白内障の特徴

みやしたひさのり
○宮下久範、初坂奈津子、柴田哲平、関 祐介、谷村直紀、石田秀俊、桶本 孟、
鶯飼祐輝、久保江理、佐々木洋 (金沢医大)

3. 福井大学における抗菌薬点眼なしの硝子体注射と眼内炎の発生率

おおしまひでゆき
○大嶋秀幸、盛岡正和、高村佳弘、山田雄貴、後沢 誠、稲谷 大 (福井大)

(13:45~14:30) 座長 しばたしんすけ 柴田伸亮 先生 (金沢医大)

4. 滲出型加齢黄斑変性の3年治療成績

うえだともこ
○コンソルボ上田朋子、阿部慎也、濱田瑞綺、渋谷法子、永井騰是也、沼田彩花、
福島正樹、本多祐樹、尾崎弘典、柳沢秀一郎、林 篤志 (富山大)

5. ビジョンケアネット石川の平成30年度運用実績報告

みやうち おさむ
○宮内 修 (石川県眼科医会、みやうち眼科)

6. 「コンタクトレンズ管理手帳」配布1年後の結果と今後の展望

もちづきゆうじ
○望月雄二 (石川県眼科医会、医療法人社団望月眼科医院)

特別講演

(14 : 30~15 : 15) 座長 ^{すぎやまかずひさ} 杉山和久 (金沢大)

「網脈絡膜の生体イメージング
—基礎から臨床、そして人工知能へ—」

名古屋市立大学病院 病院長
名古屋市立大学大学院医学研究科視覚科学 教授

^{おぐら ゆういちろう}
小椋 祐一郎 先生

(15 : 15~16 : 00) 座長 ^{すぎやまかずひさ} 杉山和久 (金沢大)

「緑内障視神経乳頭の不思議に迫る
—さらなる不思議をめざして—」

東邦大学医療センター大橋病院眼科 教授

^{とみた こうじ}
富田 剛司 先生

「網脈絡膜の生体イメージング —基礎から臨床、そして人工知能へ—」

名古屋市立大学病院 病院長
名古屋市立大学大学院医学研究科視覚科学 教授

おぐら ゆういちろう

小椋 祐一郎 先生

1. Acridine orange leukocyte fluorography

我々は、1993年に核染色色素の acridine orange と走査型レーザー検眼鏡を用いて、網膜微小循環において白血球の生体イメージングに世界で初めて成功した。その手法を用いて、糖尿病網膜症や網膜虚血などのいろいろな病態での白血球動態を研究してきた。特に糖尿病網膜症では非常に早期から網膜毛細血管に白血球が塞栓することを発見し、網膜虚血や血管新生の病態に白血球が深く関与することも明らかにした。

2. 超広角眼底撮影

眼底の80%をカバーする200度の眼底写真を撮ることのできる Optos®が開発され、眼底周辺病変の意義が研究されている。我々も、種々の疾患で超広角眼底観察の意義を検討してきている。講演では、超広角インドシアニン赤外蛍光造影により中心性漿液性網脈絡膜症や原田病の脈絡膜循環を定量評価した研究の成果を報告する。

3. 光干渉断層撮影

我々は光干渉断層血管撮影を用いて、中心窩無血管帯 (foveal avascular zone、FAZ) が網膜症のない糖尿病患者で大きくなっていることや、糖尿病黄斑浮腫の病態に網膜深層の毛細血管瘤が関与していることを報告した。また、糖尿病網膜症の周辺部の網膜虚血がFAZと相関していること、FAZの拡大が網膜症進行と相関していることも報告した。黄斑疾患の光干渉断層撮影の画像を人工知能に学習させて、診断補助を行う試みについても成功しており、人工知能を搭載した光干渉断層撮影装置を共同開発した。

「緑内障視神経乳頭の不思議に迫る —さらなる不思議をめざして—」

東邦大学医療センター大橋病院眼科 教授

とみた ごうじ

富田 剛司 先生

緑内障では視神経乳頭に特徴的な陥凹が生じることは周知の事実である。逆に視神経乳頭陥凹は、緑内障を緑内障たらしめるアイデンティティーに他ならない。ただ、他の視神経疾患と異なり、何故緑内障だけにそのような大きな陥凹が生じるのであろうか。眼圧(と多くの $+\alpha$)のためだ、というのがこれまでの通説であるが、その成立過程を明確に示している教科書、文献に未だ出会わない。この緑内障視神経乳頭の不思議に、演者なりの考察を加えながら迫ってみたい。